

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 発達の遅れや偏りのある子どもたちの性との向き合い方や適切な支援の仕方について学ぶ
- 2 対象 保護者・教職員
- 3 専門医 井上 聡子 医師(産科婦人科)
- 4 実施月 7月
- 5 内容(キーワード)
自立とは依存先を増やすこと
性教育に 答えは無く、常に 試行錯誤



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*産婦人科医の助言は、保護者が抱える現在から将来にわたっての不安や悩みの解決の一助になったと思う。

②校内の組織づくりについて

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*性に関する指導を活性化していくために保健体育部が中心となり各学部・学年と連携しながら実践を積み重ねていく必要性を感じた。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*2年にわたり井上医師の講話を拝聴する機会を得たことにより、保護者も学校も「依存先」が一つ増えたと思う。地域の専門医に本校の実態を知って頂けたことや産婦人科受診のハードルが下がったことは大きな成果であったと言える。

〔受講者の感想など〕

○(保護者)

相談しにくい性のこと。先生のお話を聞き、私の凝り固まった頭がほぐれていくのを感じました。性のことは「親」しか、と思っていたが、考え方を少し変えるだけで子供と気持ちを共有することでお互いに Happy になれるんだと思いました。子供が幸せになるよう「依存先」をたくさん増やしていこうと思います。

(教員)

一人の人間としての“生”と“性”は切り離せないと感じて気づかされた。「生まれてきた自分」はそれだけで価値ある存在、人間として一番大切なことに立ち戻って子どもに関わっていきたい。



〔教科やその他の指導との関連性〕

○児童生徒との日常の関わりや性の指導の実践にすぐ役立つ研修だった。